

## 2020 年度事業 進捗報告書（実行団体）

- 提出日：2022年9月20日
- 事業名：人権教育のためのデジタル博物館
- 資金分配団体：(一財)大阪府人権協会
- 実行団体：(公財)大阪人権博物館

### ① 実績値

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況 *
デジタルコンテンツの提供による教育機会の増加	学習機会が相対的に増加し、人権問題について視聴者の意識が変化しているかどうか。	デジタルコンテンツが有効に活用され、学習・研修機会が保証されている。	2024年 3月	当館のHPでのデジタル版の配信およびDVDの販売を開始し、広く購入されている。	2
実物資料やパネルなどの有効活用による学習機会の保証	展示観覧によってアクティブラーニングでき、なおかつ新たな知見などを獲得できているかどうか。	移動式の企画展における展示観覧によってアクティブラーニングが可能となっている。	2024年 3月	エル・おおさかにおいて「企画展2022」を開催し、301人の来場があった。	2
セミナーなどの実施による若年層の参加の促進	当事者の話を聴く機会などに差別・人権問題を担う新たな層が参加・交流しているかどうか。	セミナーなどの研修に若年層の参加が増えている。	2024年 3月	ミュージアム・トークやセミナーなど開催し、差別・人権問題解決の新たな担い手の参加を呼びかかた。	3

\*進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

## ② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 <input type="checkbox"/> 変更なし <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
マスク着用、検温、消毒の推奨、関連企画などにおけるアクリル板の設置、会話の抑制などの告知をおこなった。

## ③ 広報（※任意）

1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）

◇「リバティおおさか・企画展 2022」に関して『読売新聞』2022.7.20 付 『毎日新聞』2022.7.23 付 『朝日新聞』2022.7.24 付

2.広報制作物等

◇DVD映像①「ハンセン病問題を考える(2タイトル)」<各 20 分>、②「牛肉と私たちの暮らし(1タイトル)」<15 分>

3.報告書等

◇別添の関連資料（p d f）

## 2020 年度事業 中間評価報告書（実行団体）

### 評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
内部	本事業における行政と法律に関する提言と助言	丹羽雅雄	理事
内部	本事業における学校教育に関する提言と助言		理事
内部	本事業における企業に関する提言と助言	小頭芳明	理事
内部	本事業における教育に関する提言と助言	成山治彦	理事
内部	本事業における被差別当事者に関する提言と助言	赤井隆史	専務理事
外部	小学校の人権教育に関するアドバイス		大阪市内小学校教諭
外部	中学校の人権教育に関するアドバイス		大阪市内中学校教諭
外部	行政の人権研修に関するアドバイス		大阪府内中核都市総務部人事課職員
外部	企業の人権研修に関するアドバイス		上場企業総務部人事課社員
外部	博物館での人権学習に関するアドバイス	駒井忠之	水平社博物館館長
外部	資料館での人権学習に関するアドバイス		公害地域再生センター研究員

## A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

### ① 短期アウトカムの進捗状況

アウトカムで捉える 変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
研修・学習の受講者	教材活用機会の増加		2024.3	学習教材を通じた学習機会の増加・会話の促進
展示の観覧者	観覧者の意識変化		2024.3	実物資料などの展示観覧による意識・関心の変化
若年層の参加・交流	若年層の参加率		2024.3	セミナー等への参加による問題解決方法の模索



### ② アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」(※任意)

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察
① デジタルコンテンツ(映像教材)を活用した映像教材の活用度合い	① 各学習・研修段階に応じた視聴や観覧は、幅広い層で実現できている。	① 学校、企業、行政などの現場において、学習・研修段階に応じた視聴を継続することが求められる。
② 実物資料・パネルなどを用いた展示公開への視聴度合い	② 視聴者や来館者に当該問題に関する人権意識や関心の変化がみられる。	② 人権学習・啓発担当者はもとより一般市民の観覧なども促進されており、幅広いテーマでの実施が期待されている。
③ 若年層の事業参加と意識の変化	③ 事業への参加年齢層はやや高く、若年層の参加促進は到達していない。	③ 学校現場などでの学習をより促進していくなかで、若年層の関心を高めていく必要がある。



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
<p>事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい</p> <p>と自己評価する</p>	<p>映像コンテンツを多く視聴してもらう機会ができ、人権問題に関する意識の変化がみられるとはいえ、各学習・研修段階において、より広く活用してもらえらるための方法をさらに追及していく必要がある。また、展示公開に関しても、実施場所および実施時期の妥当性を考慮しつつ、より多くの観覧を実現するための方法をより考察する必要がある。また、いずれも若年層への浸透をさらに図っていくことが求められており、学校や職場での人権学習・啓発を通じた意識の変化と問題解決のための新たな参加者層の確保が重要となると判断される。このため、評価は「おおむね達成」と考察される。</p>

## B) 事業の改善状況の評価

### ① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	① デジタルコンテンツを利用した映像教材の制作 ② 実物資料などを用いた展示公開の実施	① 多様なニーズに応じたデジタルコンテンツの制作は実現 ② 展示観覧機会の保証は実現	① 人権教育・啓発に携わる教員や担当者に広くおこなったアンケート結果によって、映像教材の制作は現場において十分活用してもらえるものと考察する。 ② 展示事業の実施にあわせておこなったアンケート結果によって、観覧者の意識に変化がみられることから、一定の理解が深まり、人権問題への関心が高まったと考察される。
実施をとおした活動の改善、知見の共有	新たな参加者層（とくに若年層）の確保と増加	事業実施にあたって、もアウトカムの目標とした若年層を核とする新たな参加者層の増加には至っていない。	とくに、展示事業の実施過程で、来場年齢層を分析すると、40歳代、50歳代が最も多く、10歳代～30歳代にかけては全体的にかなり少ない。広く公開された場よりもむしろ、学校などでの人権学習を通して若年層に関心をもってもらえるような働きかけが必要となると考察される（その際、小中学校の教員の協力を得て、児童・生徒の意識変化について測定することが必要となる）。
組織基盤強化・環境整備	持続可能な組織運営と長期アウトカムへの展望	事業実施の過程で、さらに将来像を明確にしていく必要がある。	デジタルコンテンツを活用した事業を今後も持続させていくためには、必要経費（制作費用など）の効率的な捻出と、事業実施の適切性を常に意識しておくことが重要であると考察される。

### ② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

- ◇人権教育・啓発現場での具体的なニーズに基づいた映像教材の制作
- ◇夏休みなど、教育関係者をはじめとして、来館しやすい時期における展示公開事業の実施

### ③ 事前評価時には想定していなかった成果

- ◇映像教材の販売（有償）にともなった収入の増加
- ◇HP 環境の改善による多彩なデジタルコンテンツの提供機会の増加
- ◇30歳代の女性がボランティアとして「企画展 2022」を手伝ってくれたこと



#### ④ 事業計画の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる</li> <li><input type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある</li> <li><input type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っている</li> </ul> <p>と自己評価する</p>	<p>映像教材の制作に関しては、人権に関するテーマの多様性に鑑みて、当初予定していなかった問題を取り上げる必要性が生じることが考えられ、リアルな展示公開事業だけではなく、より多くのデジタルコンテンツを活用することになる。それゆえ、事業計画を適切に改善しつつ、「デジタル博物館」に適合する事業の実施を意識して推進していく必要があると考察される。</p>

#### ⑤ 中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

小・中学校における人権教育の取り組みの中で、映像教材を使用した授業を展開している教員にご協力いただき、授業実施前後の児童・生徒の人権問題に関する意識や関心の変化（当館が目指す短期アウトカムの指標）について、具体的に追跡したい。これは、若年層の人権問題への関心を高めるといった視点から、学校教育段階での人権問題への認識を生成することが必要だと考えているからである。また、被差別当事者を中心とする映像教材の上映会などをおこなうことで、若年層への働きかけを積極的におこなっていくことも喫緊の課題である。

添付資料

活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3～4枚程度）

